

第6回
浅草地区まちづくりビジョン策定委員会

日時：令和7年3月28日（金）
16：30～17：30
場所：台東区民会館 特別会議室（大）

16時30分 開会

1 開 会

2 会長挨拶

3 議事

○事務局 次第の「3. 議事」に入る前にお断りさせていただきます。本会議は設置要綱の第8条の規定に基づきまして、会議および会議録を公開させていただきます。会議資料と議事録は内容を確認しまして、発言者のお名前を伏せさせていただいたうえで、区のホームページで後日公開させていただくことをご了承いただければと思います。それでは、以降の議事につきましては会長、よろしくお願いいたします。

○会長 それでは、お手元にあります議事次第をご覧ください。前回の委員会以降、まちづくり部会と基盤整備部会それぞれで会合を重ねていただき、このような資料が出来上がっています。各部会での議論の状況の共有と今後のスケジュール等について、一括で説明をお願いいたします。

(1) 前回委員会以降の各部会等での議論の状況について

<事務局より資料1について説明>

(2) ビジョン策定のスケジュールについて

<事務局より資料2について説明>

○会長 最後に説明がありましたが、まだ中身の議論が続いているということで、最終的なビジョンの策定期限を遅らせて、もう少しお付き合いいただきたいというお話でございました。何かご質問があればお受けしますが、いかがでしょうか。

○各委員 (特になし)

○会長 よろしいでしょうか。本日は、ビジョン素案のたたきがこの後出てくるので、それを見ていただいたうえで、スケジュールについて、もう一度振り返っていただき、ご意見があればいただきたいと思います。

それでは、議事の「(3) ビジョン素案作成に向けて」についてご説明をお願いいたします。また、議事の「(4) ビジョン策定後の検討体制(案)について」も含めて全体の説明をいただいてから、意見交換に移りたいと思います。

(3) ビジョン素案作成に向けて
＜事務局より資料3について説明＞

(4) ビジョン策定後の検討体制(案)について
＜事務局より資料4について説明＞

○会長 ビジョンの策定に向けて、委員会等の回数を変えさせていただいて、来年度も引き続きやらせていただくのですが、「まちづくりビジョンの素案たたき」というものが資料3です。最初の方でイメージを語っている部分があり、その後は、5ページにある目次のように、浅草の将来をどう考えるか、それに向けた戦略をどう考えるか、そういったことについて書いてあり、最後はプロジェクトに落としていきたいというのが趣旨だと思います。これだけかどうかはありますが、浅草のエリアで広く、それぞれのパートも含めて、実際にプロジェクト化を進めていかなければいけない。ビジョンだけを描いて「絵に描いた餅」ということにならないよう、具体的な話に展開していきたいというようなことを狙っている。そのために、来年度以降は準備会を進めていきたいということですが、今日はまだその前段でございます。そもそも浅草をこれから大きくアピールしていくための「キャッチコピー」のようなものが出ました。「歴史」というのは当然あるのですが、それに何をかけ合わせて浅草の次の姿を言うか、という話であるとか、それから、三つの大きな視点があって、それぞれ三つずつ、九つの戦略に分類して、その内容をいろいろ書き、その上でさらに具体的なプロジェクトを定めるというような構成で、このビジョンを作っていきたいということが示されています。個別の内容はまだ、まちづくり部会や基盤整備部会で議論していただいていますので、詰めきってはいないところではありますが、こうした全体像でよろしいのかどうか。「何かちょっとイメージが違うぞ」ということであれば、ご意見を言っていただいて、方向性の修正をかけていきたいと思っています。

これまでまちづくり部会・基盤整備部会で、それぞれの先生方にご指導いただいています。何か補足することがあれば、まず先生方からお話をいただいて、それから意見交換をしたいと思います。先生方から何か補足はありますか。

○委員 大きなテーマとして「回遊性」というものがあると思います。資料3の

12 ページを開いていただくと、「目指すべき姿」として、回遊性の絵が示されています。回遊性というと、どうしてもぐるぐるとした円のようなものを思い浮かべてしまうのですが、実態としては多分違うと思います。イメージとしては円で良いのかもしれないが、実態としては、その回遊性を実現する方法として単に円運動で動いてもらうわけではなく、例えば浅草の中でも、六区ブロードウェイ通りとその周辺をどう結びつけるか、あるいは南北の軸に対して東西の二天門通りや伝法院通りをどう結ぶか。東西の動きも当然大事になってくるので、解像度を上げて、空間のしつらえや、人の動きをきちんと見ていかなければいけないと思います。また、先ほどのストーリーをしっかりと作って行って、どうやったら観光行動が大きくなるのか、社会をどのように動かしていくのかを考えていかなければならないと本当の回遊性は実現しないのだと思います。もちろん、拠点を作っていく、それによって波及効果が出ることも考えられなくはないのですが、本当に回遊性を考えたいのであれば、今申し上げたようなことを、今後のプロジェクトや事業として、しっかりやっていかなければいけないと思っています。

○委員 私が特に強調したいと思っているのは、まちづくり部会がソフトの要素を検討し、基盤整備部会がハードの要素を検討し、両者でどうやってシナジーを持たせるか、という観点で考えたとき、「舞台装置」と言いますか、何かしら、ハード側で象徴的な部分についてどのような絵になりそうかを一定程度示し、まちづくり部会でも話題にしていかなないと、どのようなソフト施策ができそうかという発想もつかないでしょうし、そういった意味で言うと、「回遊を支えるプロジェクト」というのは、まずはこのビジョンで提案すると同時に、それよりも先行していく必要がある。あまりモタモタすると、タイミング逸すると思います。至急動かさなければいけない案件も出てくる気もしますので、そういうものを、限られたエリアだけでも、一定のプロジェクトとして立て付けをして初めて、まちづくり部会と本格的な議論ができると思います。こういう「舞台」のアイデアがあったら、まちづくり部会で考えているような、いわゆる「ここで何をやるか」ということが具体的にどういうイメージを持って評価されるのか、という流れになると思います。開業させるときに、どういう流動が起きそうか、という点についても、想定される流動から見たときに見落としていることがないかどうか、そういうところは今後、検討の中で出てくるでしょう。また、浅草自体が、東京の他の地域とどういう関係性を持っていて、どういう人がどこからどういうふうに入ってきて出ていくのか、というところが、住民側と来訪者側のそれぞれの観点から、いくつか代表的なものについて考えると、必要な基盤の位置づけや、人数規模みたいなものを想定できれば、滞留空間を増やさないと混雑したままになってしまうのではないかな等、今後、詳細に議論できそうだと思います。

ようやくスタート地点に立ったと、今日私は受け止めています。そのような形で、今後の議論を展開できると良いなと思っています。

○会長 今日たたき台のたたき台なので、皆さんがお持ちになっている将来の浅草のイメージ、あるいはそれを実現するための具体的なプロジェクトについて、もう少し違う視点があるのではないかと、ここに書かれていないけどこんなことも考えたかどうかなど、いろいろとご意見をいただければと思います。が、いかがでしょうか。

最初に事務局から、キャッチコピーみたいなものを提示されましたが、どうでしょうか。そのことについて、具体的に住んでいる方と訪れる方の視点から文章で書かれていますが、イメージは合っているでしょうか。そこが違っているとだいたい話がずれてしまうところですが、大丈夫でしょうか。

○委員 いくつか案が出てきているが、「歴史と●●」という場合に、「歴史」と「●●」は対極的な言葉というか、対義語であった方が「溶け合う」という言葉に繋がってくると思います。例えば、「歴史と変化」とあるが、歴史は当然変化するものであり、言葉として重ねるにはあまりよろしくないかなと思いましたので、もし「●●と▲▲がどうする」と言う場合に、その言葉どうしの関係性を考えた方が良いでしょう。どれがおすすめるかと言われると、「歴史と変化が溶け合うまち浅草」が良いと思います。

○会長 皆さんのイメージと合いますかね。まだ何とでもなりますので、どこからでもご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○委員 「歴史と変化」と書いてあるが、浅草という場所は、1400年前から歴史があるまちなので、浅草の全部を未来的なまちにするのではなくて、古い歴史を残しつつ、近未来的なものも取り入れたような形で整理されるのが良いと思いました。ただ一色にしないで、いろんな色のあるまちにしてくれたらよろしいかと思います。

○会長 歴史もそれぞれの時代でありますし、きっと一色にはならないでしょうね。そういう変化を新しい言葉で表現するのか、「挑戦」という言葉で表現するのか。「若々しい」という言葉もありました。いくつかの表現があって、そういうまちなのだと。それをこの先どのように持っていこうとしているのか、そのイメージがお住まいになっている方と訪れる方の二つの視点から考えてみたい、というのが最初のプロローグメッセージだと思います。これについて何かご異

論があれば、ぜひいただいた方がよいと思いますが、いかがでしょうか。今後も議論させていただきますので、今回事務局からはこういう案が出てきているので、皆さんの中で考えていただいて、全体で議論させていただきたいと思います。そういうイメージを実現するために、まちづくり部会等で議論があったようではありますが、いくつかのキーワードが出てきていて、「磨き上げる」とか「結わえる」とか「際立たせる」とか、そういう言葉を軸にしていくつかの戦略を書こう、ということで挙がってきています。

この戦略の精査はこれからなので、「具体的にここをいつやろうか」という話を詰めるまでは少し時間がかかるかもしれません。そういうものを束ねて「プロジェクト」として打ち出したいという大きな構成についてはいかがでしょうか。プロジェクトがハードだけではないということがもう少しわかりやすくした方がよい気はします。

また、ビジョンについて「浅草として自ら動いていこう」というメッセージをどう出すかということにもつながるのですが、その出し方が最後のページに示されています。時間軸があって、一つは 2030 年頃を節目に置いているようで、これから 5 年ぐらいの間にやることをはっきり打ち出したい。それからその先、もう少し時間をかけてしっかり取り組んでいきたいものに分けていきたい、ということが今日の事務局からの提案です。具体的に何がどこに入るかは、まだ議論としてはあるのですが、大きな方向性として、2030 年あたりを一つの節目にして、具体的なプロジェクトを最後にまとめていきたい、という構成についてもぜひご意見があればいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

「浅草寺創建 1400 年」も 2028 年とすぐですから、すぐできることしかプロジェクトにはなりません。2030 年というあたりでどうか、というお話で、このときには、東武浅草駅、隅田公園や震災復興も含めて「100 年」という節目を迎えて、浅草の次のステージに繋がるものをこの時期には出したい、ということでございですが、このような整理でよろしいですか。

あとは中身をどうするかについては、まだこれから詰めなければならないところが残っていて、この詳細はまた部会で、その頃までにちゃんとできるものが何で、価値があるものとは何か、という精査をしていただく必要があると思います。

○委員 例えば、25 ページからプロジェクトの説明が始まるが、地区内の場所がプロジェクトの名前になっている。この地区の中で「重点的にまちづくりをやる場所を象徴してこういう空間になる」ということが伝わるタイトルになっていて、ありがたい姿というのはおそらく最後なのですかね。2030 年頃の姿もあるかもしれないし、ここで言っている 2047 年頃の最終形の姿というものを、段階

を追っていくような描き方という形があるかもしれない。整備メニューについても、すぐできるものと、合意形成が必要ですごく時間がかかるものも混在しているかもしれないので、25 ページ以降の内容は、時間軸に合わせてすぐやるべきものからそうでないものまで、整理をする必要があるかもしれません。

また、先ほど会長が言われたように、メニューがハード系に寄りすぎている印象があるため、例えば整備メニューだけではなくて、ここに対してどういうソフトのアプローチが想定できるかというものについても、整備メニューと関係づけをしていくところが必要だと思います。残り 1 年弱でどこまでできるかということになりますけれども、ここの整理ができると、ビジョン策定後、こういうプロジェクトに関する協議会みたいなチームを具体的に作っていくときに、スタートから何をすべきか、どういう関係者を入れておくべきかということも、ちゃんとイメージができていくのかなと感じております。

○会長 IV章で、時間軸を意識した整理が必要だというのは、おっしゃる通りだと思います。具体的にプロジェクトごとにいくつかフェーズがあって、すぐできることと時間がかかることの仕分けもそうですし、具体的に誰が中心になってそれを回していくのかという話も、令和 7 年度の準備会で、より具体的に議論していただかないと、「みんなでやろうね」と言いながら、やはり誰かリードしていただく方がいないと動かない場合もあるので、役割分担を意識して動いていくべきだと思います。

○委員 キャッチコピーをよく見てみたときに、「歴史と変化が溶け合う」ということになると、変化を起こす人たちは若く、みんな「そうだ」と思うんですね。まちにずっと流れてきた歴史があるわけですが、ところが「変化」というのは、ここに若い方のいろんな考え方が入ってくるのは良いけれど、この人たちがこのムードの中で付き合ってくれるような変化であつたら良いと思います。「古い歴史を壊さないといけない、我々が浮かび上がらないといけない」という形になってきてしまうと、対立性が出てきてしまう。

それから、「歴史と挑戦が溶け合う」となると、これも同じような意味が出てきます。昔から歴々と重ねてきた歴史が、「挑戦によってそれを全部破壊するんだ」というように取られてしまうと困ると思うし、歴史がありつつ、若々しい浅草のまちを目指すとなると、やはりこの歴史をつないで育んでいって、それで新しいまちを作ってくれる人は、やはり若い思想の人たちと思うので、「歴史がある、若々しいまち」は、他と比べたときには、そういった闘争性は控えめであるし、文化性の方が強いのかなという感じがするので、これが良いのかなという印象があります。

○会長 こういうキャッチコピーは受け止める方のイメージが大事なので、ぜひ色んな方からご意見をいただけると良いですね。委員会はもう2・3回ありますから、この点については引き続き検討させていただくということにしましょう。

最初に言いました通り、大変お忙しい中でご参集いただいているので、長時間会議をやることは避けたいと思うのですが、ぜひ皆様から「これだけは言っておきたい」ということを幅広くご意見としていただきたいと思います。いかがでしょうか。行政の皆さんも大丈夫ですかね。応援するためには、「こういうことをやった方がいいよ」というアドバイスをいただけると良いと思うのですが。

事業者の皆さんもよろしいですか。「特にこれは書いておきたい」とか、「変えてくれ」という話があればご発言いただけると良いと思います。熟度が低いので、これが良い・悪いというにはまだ曖昧なものが並んでいるという感じがしますが、全体の構成として、こんなことを考えてビジョンを作っていきたいという思いであり、ビジョンを「絵に描いた餅」で終わらせないため、そのためのプロジェクトを短期あるいは長期で具体的に対応するためにリストアップし、ハード・ソフトを合わせてやるということを、このビジョンとして最後に謳いたい。そのイメージが、最初のキャッチコピーとうまく合ってくることが当然望ましいわけですね。歴史があることは間違いないが、それをどのように進化させていくのか、というところの表現をどういうふうに打ち出せば、世界に通ずるところがあるのか、というあたりについても引き続きお知恵をいただければと思います。

○委員 「もう少し書き込んでほしい」という私からの要望という意味で発言させていただきますが、このまちづくりビジョンの検討とは別に、浅草十二階凌雲閣の復元に向けた頭の体操をしております。これは観光庁からお金をいただいて、建築的に、あるいはビジネスとして成り立つかどうかを検討しております。そこで良い議論ができておりますし、そこで出てきた計画案もなかなか優れたものだと思っておりまして、その復元した塔状の建物に集客するだけではなくて、足元のオープンスペースと周辺の道路や周辺敷地をどうやって繋げて、滞留の拠点を作っていくかということをまさに今、計画案としてまとめている段階です。今、28 ページの内容が、まさにこのプロジェクトが該当するところだと思うのですが、こちらの検討内容を、まだビジョンにうまく入れ込めていませんので、今後、こういった具体的に進んでいるプロジェクトをどのように入れていくかということは検討しなければいけないと思います。地権者や事業者との調整の話もあるので難しいところではありますが、ぜひとも検討している内容に関してはビジョンに入れ込んでいきたいと考えております。

○委員 私自身も完全に整理できていないわけでは無いですが、先ほどいただいた地元の方からのご意見を踏まえて、例えば歴史や新しさみたいなものをどうやって見える空間として形成していくかというときに、他の東京の地域が実施しているように、広いエリアで大規模な開発をして育てるという絵姿ではないだろうと思っています。大きく作り変えるところというのはおそらく最小限のエリアにして、例えば浅草寺などいろんな重要な場所からあまり目立たないように、形としてどうできるか、という話があります。一方で、歴史があって古くて価値があるようなものであったとしても、仮に地震が来たら危ないという類のものについてはそのまま補強するという選択もあるし、残念ながら建て替えなければいけないがその建物が元々保有する機能とか位置づけみたいなものを現代風に置き換えて、コンテキストとして歴史を引き継いで作っていく方法もあると思います。

いずれにしても、具体的に各地域でどのように作り上げていくか、という全体のイメージがあって、それをうまく機能させるために公共空間や街路、滞留スペース、それから駅や舟運との接続など、20年後位にどういう機能が入っていてどういう人が来るか、というところを全部結びつけていくということを、残り時間が短い中で、イメージしたうえでもう1回このビジョンのワンフレーズを考えると、良いものができそうな気がするという感想です。

○会長 実際に動かすプロジェクトが、ある程度皆さんの中で共通のイメージが固まってこない、確かに「キャッチコピーと合っているか合っていないかなんて分からないじゃないか」と言われたらその通りなので、後半の「具体的に何をやるのか」という話を基盤整備部会や準備会でともに詰めていただいて、そのイメージを持ちながら、全体像をもう一度確認し合う、ということが重要だと思います。どちらから考えても同じものにならないといけないのですが、文字ばかり出ても実態と合わない可能性もあるし、実際に動かしたときに、やれる話とやりたい事が合っているかどうか議論していけない。皆さんの中で持っているいろんな思いを具体化する、その中身をぜひ詰めていただきたいと思います。それを共有しながら、キャッチコピーをもう1回、こういうことだったね、と確認できれば良いなと思います。

今日は中途半端な資料でなかなか議論が先に行っていないところではありますが、大変お忙しい中集まっていたいただいたので、一旦ここで事務局にお返ししたいと思います。

4 閉 会

○事務局 会長からのご指摘の通り、本日事務局が用意した資料につきましては全体的な枠組みをご議論いただくということで、なかなか議論しにくい資料でございまして大変恐縮でございます。今後各部会で、各取組について一つ一つ議論し、イメージを共有しながら、次回の策定委員会ではもっと深い議論ができるように事務局で資料整理していきますので、今後ともよろしくお願いします。

それでは、本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。以上をもちまして第6回浅草地区まちづくりビジョン策定委員会を終了いたします。

17時30分 閉会